

指標名：ESPフォーキャスト調査(2010年11月)

発表日：2010年11月11日(木)

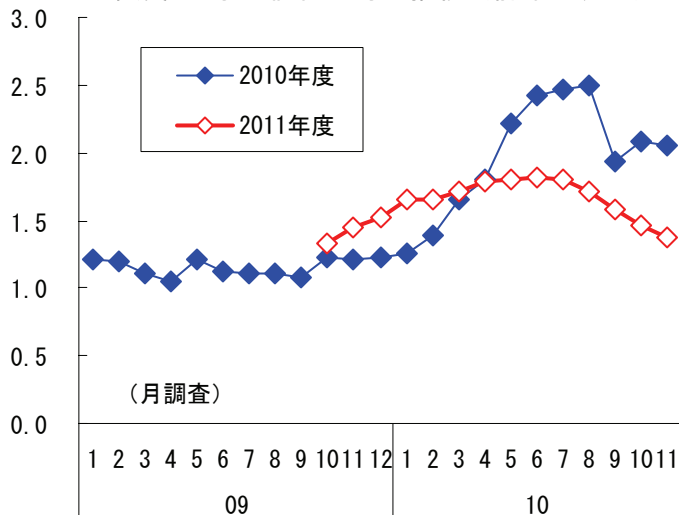
～2010年10-12月期の成長率見通しが下方修正～

第一生命経済研究所 経済調査部

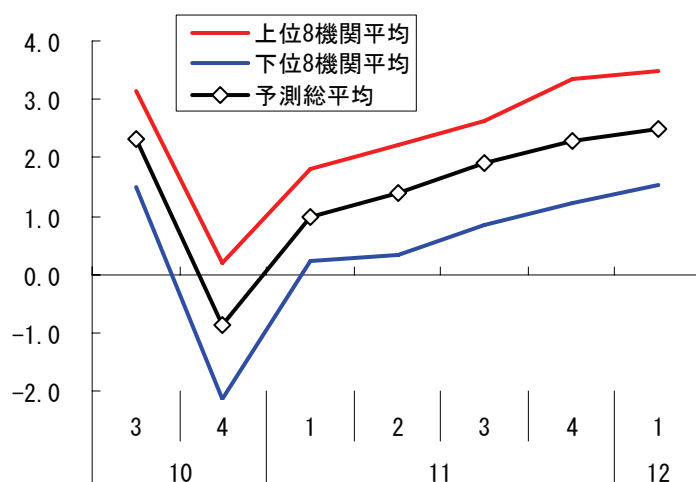
担当 主任エコノミスト 新家 義貴

TEL：03-5221-4528

実質GDP予測値総平均の推移（前年比、%）



実質GDP予測（前期比年率、11月調査、%）



（出所）経済企画協会「ESPフォーキャスト調査」より作成

○ 7-9月期は伸びが高まるも、10-12月期はマイナス成長か

経済企画協会から11月のESPフォーキャスト調査が発表された。ESPフォーキャスト調査は、多くのエコノミスト・調査機関を対象にGDP成長率や消費者物価などについての予測値を集計しているものであり、月々のコンセンサスの推移が把握できる（回答期間10/27～11/4 回答数41）。

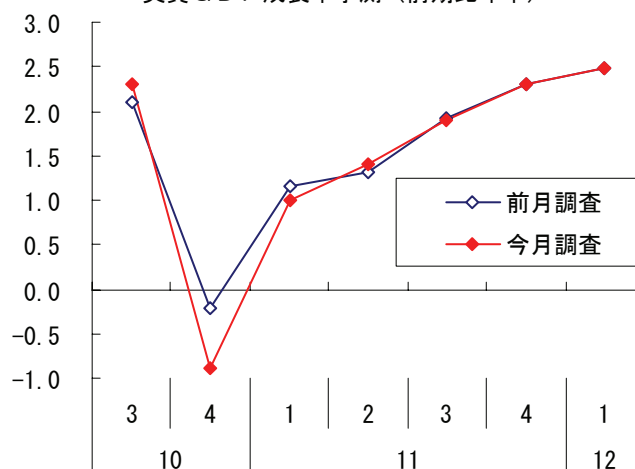
2010年度の実質GDP成長率予測値は前年比+2.06%と、前月調査の+2.09%から僅かに下方修正されている。四半期の動きを見ると、2010年7-9月期に前期比年率+2.31%と、前回（+2.11%）から若干上方修正された一方で、10-12月期が同▲0.88%（前回：▲0.21%）と下方修正されている。

自動車の駆け込み需要の反動がかなり大きなものになっており、自動車メーカーの大幅減産が実施されていることや、輸出減速が明確化していることなどが背景にあると思われる。

もともと、2011年1-3月期は前期比年率+1.00%が想定されており、マイナス成長は一時的との見方が今のところ多いようだ。

また、2011年度の実質GDP成長率予測値は前年比+1.37%となった。成長率のゲタが下がっている関係で前月調査の+1.46%から下方修正されているが、四半期の動きをみると、前回調査からほとんど変化はない。11年4-6月期が同+1.41%、

（%） 実質GDP成長率予測（前期比年率）



7-9月期が同+1.91%、10-12月期が同+2.30%、2012年1-3月期が同+2.48%と、再び緩やかに成長率が高まる姿が想定されている。

なお、今月は特別調査として2012年度の見通しも調査されており、平均で+1.84%（高位平均+2.21%、低位平均+1.43%）となった。2011年度と比べて成長率が高まるとの見方がコンセンサスになっている。

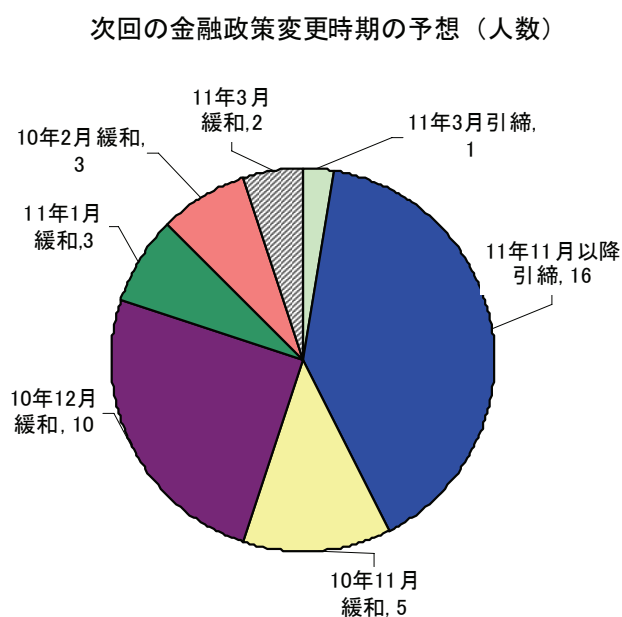
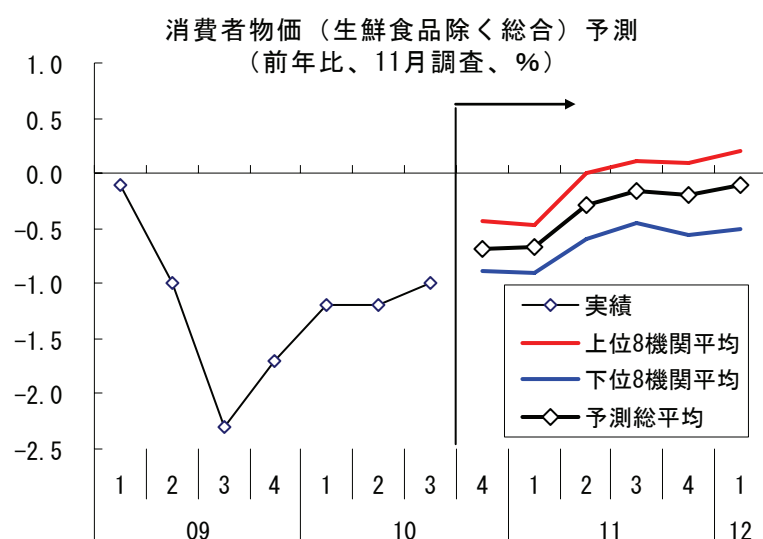
失業率の見通しについては、10年度平均が5.07%（前月：5.07%）、11年度平均は4.77%（前月：4.76%）と、前月からほぼ変化がなかった。先行きの景気減速が予想されていることもあって、先行きの雇用回復ペースはかなり鈍いものになると予想されている。

○ 消費者物価の下落幅は緩やかに縮小も、2011年度中のデフレ脱却は見込めず

消費者物価指数（コア）の見通しは、10年度が同▲0.90%（前月：同▲0.90%）、11年度は同▲0.20%（前月：同▲0.17%）だった。四半期ごとの推移をみると、先行き下落幅が緩やかに縮小するとの見方になっているが、予測期間の最終四半期である12年1-3月期でも同▲0.1%が見込まれるなど、2011年度いっぱい水面下での推移が続くとの見方がコンセンサスである。

○ 半数以上が追加緩和を予想

今回の金融政策の変更についての質問に対しては、40名中23名が緩和を予想している。日本銀行は包括緩和政策を実施したばかりだが、今後さらなる金融緩和に追い込まれるとの見方が優勢である。緩和の時期は10年11月から11年3月までに集中しており、特に10年11月が5名、12月が10名と、早期追加緩和を予想する向きが多い。



（出所）経済企画協会「ESPフォーキャスト調査」より作成